

1 現在の生育状況

【コシヒカリ】

平年に比べ、草丈は短く、茎数は並み、葉齢の展開はやや遅くなっています。

【てんたかく】

平年に比べ、草丈は短く、茎数はやや多く、葉齢の展開は並みになっています。

幼穂形成期は6月29日頃と予想されます。

(5月連休植えの場合)。

表 水稻の生育状況(6月12日、アルプス米標準田 24か所平均)

品種		草丈 (cm)	茎数		葉齢	葉色	幼穂 形成期
			本/株	本/m ²			
コシヒカリ (5/12 植え)	本年	32.7	16.6	340	8.1	4.3	—
	昨年	36.9	19.3	387	8.5	4.4	7/9
	平年	34.8	18.0	346	8.3	4.5	7/11
てんたかく (5/7 植え)	本年	35.6	23.3	499	9.4	4.5	(6/29)
	昨年	39.6	23.2	508	9.4	4.6	6/26
	平年	37.9	23.2	479	9.5	4.7	6/29

※ コシヒカリ平年値はアルプス米標準田H19～28の平均値

※ てんたかく平年値は県生育観測ほ(立山、上市)H19～28の平均値

※ 本年のてんたかくの幼穂形成期は推定値

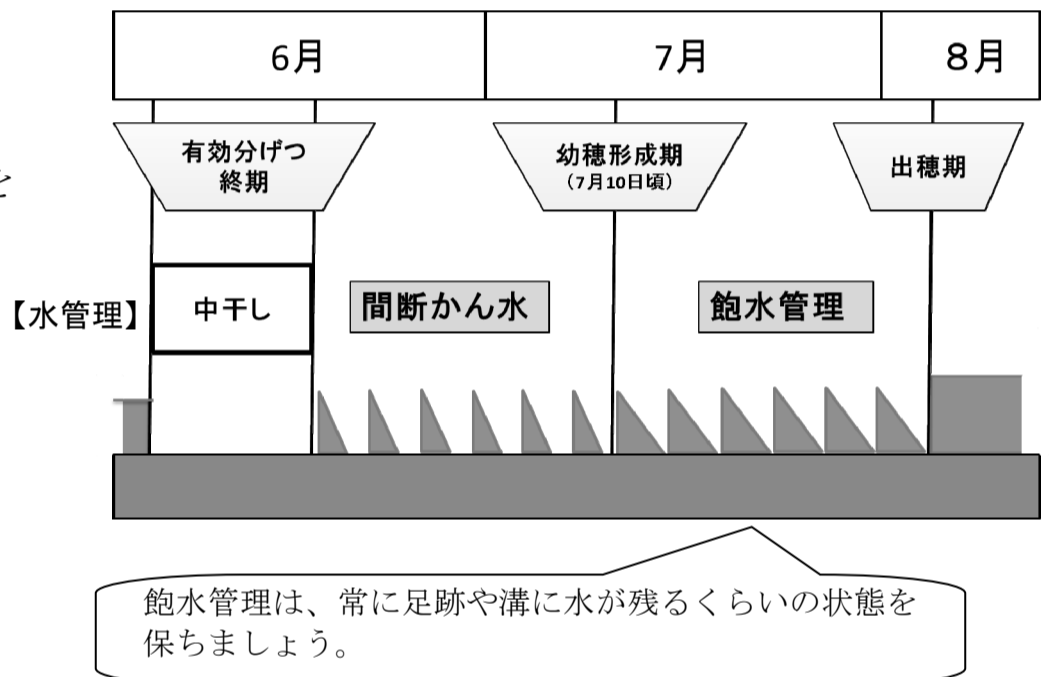
2 今後の管理

(1) 中干し後の水管理

幼穂形成期まで『間断かん水』を徹底し、根の発達を促しましょう。

幼穂形成期から出穂期までは『飽水管理』を行い、干さないようにし、根の活力維持と葉色の急激な低下を防止しましょう。

※ まだ溝掘りしていない場合は、今後の水管理のために早急に実施しましょう。



(2) 中間追肥

根の活力を高め、下葉の枯れ上がりを防ぐとともに、茎を硬くし、倒伏や病気に強い稲体にするために次のいずれかの資材を施用しましょう。

施用時期	肥料名	施用量
6月下旬	エスアイ加里らくだ	15 kg/10a
	珪酸加里	20 kg/10a

(3) てんたかくの穂肥(分施体系)

1回目の穂肥は、幼穂長1～2mmを確認後、直ちに施用しましょう。中山間地域では、施用時期が下表より3～5日程度遅くなります。

肥料名	施用時期、10a当たり施用量の目安	
	1回目	2回目
BB穂肥35号	6月29日頃 (5月連休植えの場合)	1回目の7～10日後
	10kg	砂壤土
		13kg

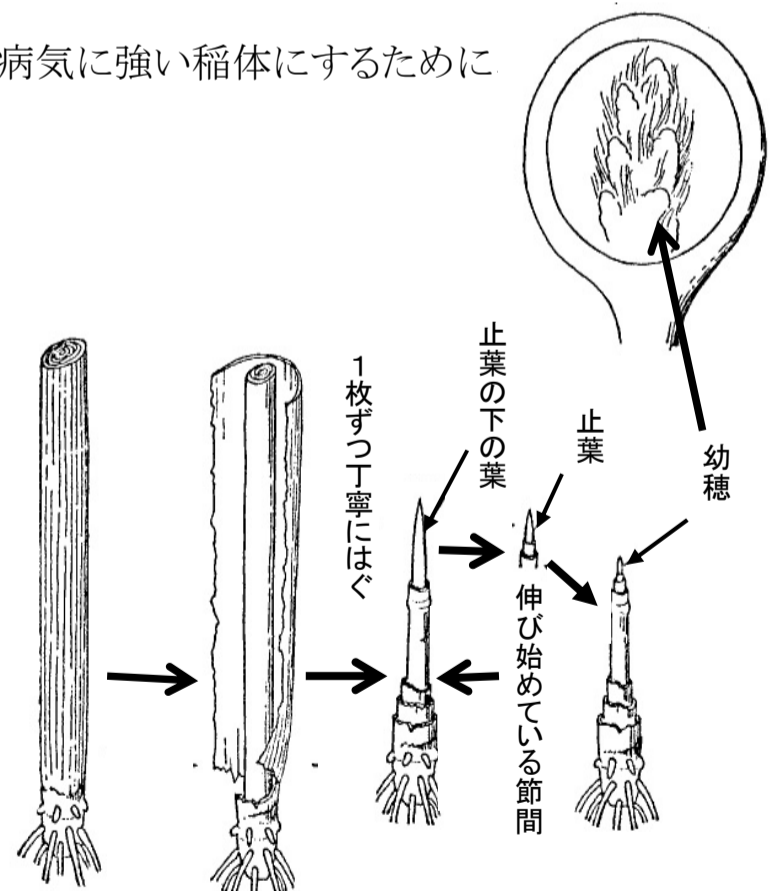


図 幼穂の確認方法

- 分施体系で幼穂形成期前に葉色が4.0を下回る場合は、BB穂肥35号で7kg/10a程度追肥しましょう。
- 基肥一発肥料を施用したほ場で、6月末に葉色が薄い場合は、各営農センターにご相談下さい。

3 斑点米カメムシ類の防除対策

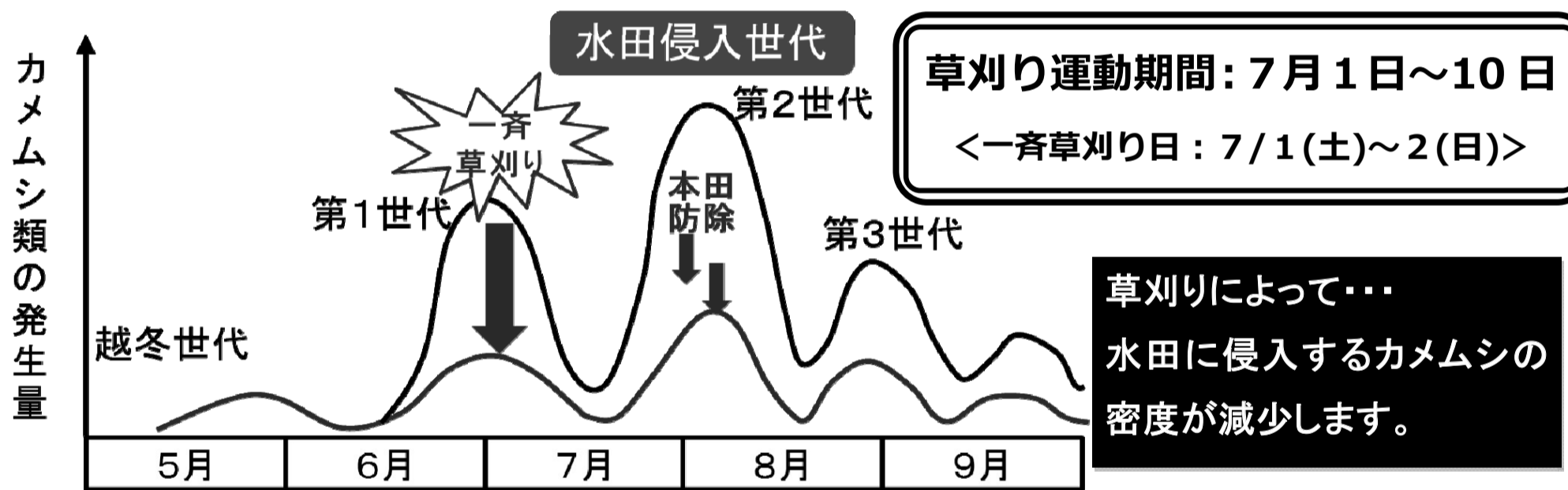
～ 適期の草刈りで、斑点米カメムシ類の発生源をなくそう ～



今年は積雪が少なく、また5月以降も高温・少雨が続いたことから、斑点米カメムシ類(以下「カメムシ」)が越冬・増殖しやすい気象経過となっています。また6月からの高温で今後も増殖が見込まれます。

カメムシは、イネ科雑草の穂を特に好み、農道や畦畔、水田周辺の雑草地が、これらカメムシの発生源となります。

斑点米の発生を防ぐには、農薬による防除の前に草刈りの実施でカメムシの餌場を無くし、生息密度を低くすることが重要です。草刈り運動期間に草刈りを行い、地域全体でカメムシの発生源を減らしましょう。



<草刈り等のポイント>

- 畦畔や雑草地でのカメムシの増殖を抑えるため、イネ科雑草の穂が出る前に草刈りを行いましょう。
- 水田内に発生した雑草(ノビエ、ホタルイ等)も、カメムシの餌になりますので、雑草の発生状況に注意し、適切な除草対策を行いましょう。
- 大麦収穫後の圃場を放置するとスズメノテッポウ等の雑草が繁茂し、カメムシの発生源になります。このことから、大麦収穫後は、クロタラリア等の地力増進作物などを作付けする等、雑草が繁茂しないように管理しましょう。

カスミカメムシ類の好む草種



メヒシバ



スズメノテッポウ

■草刈り時の留意点■

- ☞ 刈った草を用排水路に流さない。草刈りで道路を汚したら、すみやかに片付けましょう。
- ☞ 草刈り機によるケガに十分注意し、草刈り中、近くを人や車が通過する時は、小石等が飛散しないよう注意しましょう。